



Yokoso Obara Linkai

山里暮らしのあれこれ

Take Free [0円]

おはらのじかん

第32号

2024 Winter

巻頭
特集

地域を元気にする豊田市のわくわく事業とは？

おはらのわくわく事業

わくわく楽しい地域に！

【ようこそ小原へ】

【マンガイカくんキンちゃんの小原日記】

【小原いろいろ情報】

小原人
以外でもOK



小原人集まれ！
「ようこそおばら委員会」

小原のわくわく事業

豊田市にはわくわく事業という、地域活動を応援してくれる仕組みがあります。そんなわくわく事業とはなにか？からどんな団体が活動しているかをご紹介します。



わくわく事業ってなんですか？

小原のわくわく事業の特徴は申請数が多いこと、特に地区外が多く、今期は23もの団体が申請をしました。これは豊田市の中でも一番多かったそうです。でも、まだまだわくわく事業のことを知らない人は多いのが現状のようです。わくわく事業担当の豊田市役所小原支所の目崎さんにお聞きしました。

そもそもわくわく事業とは？

地域資源（人や文化自然など）を活用して、地域の課題や地域の活性化に取り組む団体を豊田市が支援をする制度です。自分たちの街を自分たちの手で魅力的にする活動団体を、豊田市は補助金でサポートするという考え方になっています。主体はあくまで住民になります。

補助金額は？

一団体の申請金額の上限は原則100万円と決まっています。以前は小原地区で予算上限が決まっていたが、現在は地区としての予算上限がなくなりました。

応募できる人の条件は？

5人以上で組織された団体。住民から支持をされていると認められている団体。なので地域の方が支持してくれないようなものは駄目だということになります。また、要件としては地域に住んでない人も応募ができるので、全くの地区外の人はかりの場合は、地域との合意形成がはかられているかなぜ小原地区でなのか？などは確認をしています。他には政治活動や宗教団体、暴力団関係は申請できません。

利益目的は良いんですか？

収入のある事業を行うことは団体補助金に依存せずに自己財源の確保に務める姿として望ましいことです。収入を会員に配分するのではなく事業費用に充てるのであれば補助対象となります。仮に当初計画していたより大きい収入があった場合は補助金が減額されます。

今期の事業の中でも、空き家の古民家を使った演劇は入場料を取って、事業活動にあてています。過去には自立をしていた団体もあり、大平町のブルーベリー収穫体験などはそのひとつです。

募集期間や募集方法は？

来期は2024年12月16日～2025年1月17日まで募

実はわくわく事業になるので是非、皆さんも挑戦してみてほしいです。

T.S



豊田地区
小原わくわく事業
Webサイト
はこちら

わくわく 団体例01 とよた衣の里プロジェクト



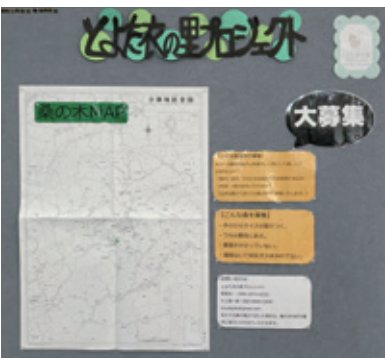
初参加のとよた衣の里プロジェクトさんは養蚕のある豊かな地域づくりを目指して、蚕の飼育や体験会などを行っている団体。地区外の方々の団体ということで、地域との交流をしてみたい？とアドバスをいただき、その縁で11月5日に本城小学校で繭人形づくりの授業をすることになったそうです。繭からサナギをだして、繭の部分に好きな絵を中には願い事を入れて完成します。繭が蚕の繭からできていること、たくさんの命が絹織物になることなど説明をされ、小学生にも貴重な体験となったようです。



申請するにあたって
第2期おばら未来プラン（まちづくり計画）との整合性を重視していきたいと思っているので応募してもらえ人は意識をしてもらえと思っています。「私は最後は人だと思っています。小原には素敵だなと思える方が多いんじゃないかな、そういった人たちが、子どもたちに何かを教えるような事業があると、個人的にはうれしいなと思っています。普段やっている活動にちよつと意識をくわえるだけで、



また、小さな養蚕家という養蚕に関わる人を増やすような活動を行っています。それは蚕を数匹受取り繭まで育てると、団体が買い取ってくれるというもの。参加してくれた養蚕家さんが自由に餌の桑を取ってこられるように、小原の桑の木マップを制作しているそうです。桑の葉を取ってもいいよという方も募集中。また、同じわくわくの団体、織姫クラブさんとコラボ作品も計画中。多様な関わりを通して、新たな地域の担い手として期待される団体です。



oyatocoはネーミング通り、お母さんと子どもたちのためのわくわくグループです。現在メンバーは9名で、代表の超元氣な白川さんと、個性的でエネルギーな子育て世代のおかあさんで運営されています。



今日は「うりボーズ」と呼ばれ、毎週月曜日放課後に四季桜公園に子どもたちが集まり自由に遊んでいるところを訪れ、皆さんにお話を伺うことができました。

oyatocoを始めるきっかけとなったのは、4年ほど前、まだコロナ禍でした。規制はあってもやはり子どもたちを遊ばせたいと仲間を募ると、思いは同じでグラウンドで大勢集まることができました。自由に楽しく遊んでいる子どもたちの様子に「子どもは集まれば遊ぶ！」と確信し、当時わくわくに親子関係のグループがなかったこともあり、また親自身の学びの場になれば

と、2年半前にoyatocoを立ち上げたそうです。それから今までの間に行なった活動はどれも楽しく活気に満ちたものでした。いくつかを挙げてみると…

親子共育フェス

2023年5月、最初に行なわれたイベントで「自然体験スクールウンチャレ」さんとのコラボでした。映画上映、子育て講座などに加え、大人も子どもも楽しく学べる、企業からのブリス、お弁当、パン、お菓子などの出店もあり、市内外からの家族で大にぎわい、主催者側も驚くほどの大イベントでした。

「流しそうめん&肝試し会」

ふくしの里で行われ、社協の職員、中学生、本城小学校区発展会の人たちの助けもあり、竹を切り、節を抜くところからの手作りそうめん流しは、総勢100人程も集まり大盛況！大量に用意したそうめんが足りなくなり、途中で買い足したとのこと。同じ日の夜は肝試しも行われ、準備とおどかす役の中学生、怖がる子どもたち、どちら側も大盛り上がりでした。

ピザ作り

西村自然農園さんでのピザ作り！自分で生地をこね、好きなトッピングをし、釜で焼いたピザの味は格別なものだったことでしょう。

子どもマルシェ&交換会

不要になったもの服、おもちゃ、本などを持ち寄つての交換会です。子どものお店もあり、また自分で欲しいものを探す子もいたり、SDGsも学べました。

巨大迷路

ダンボールで仕切られた、小さな子どもの背丈ほどある迷路が会場いっぱいに広がりその中を潜り抜けながら出口を探すドキドキワクワク感ほたまりません。

まだいくつもありますが、この辺で…

最後にメンバーの皆さんに

oyatocoへの思いを聞いてみました。

「気分わず、ゆるりとした会で、みんな気軽に参加してほしい」「月曜日放課後のうりボーズは、ともだちの家が遠い小原で、ここに来れば学区を超えて誰とでも遊べます。いつも遊び仲間大歓迎！」また、「小原移住を考えている子育て世代の人たちにこんな会があり、こういうことをしている人がいると知られ、山里での子育ての不安を取り除く助けになれば」とのことでした。

しかしそれ以上にこの楽しさで「oyatocoがあるから小原で子育てをしたい！」という家族が出てくるかもしれないですね〜！

Y.K



わくわく 団休例03 旧小原村・古民家演劇企画



「旧小原村・古民家演劇企画」を主宰する小原出身の瀬口未央さんにお話を伺いました。瀬口さんは小原地区にある空き家となった古民家で演劇公演を行っていて、3回目となる2024年10月の公演で初めて「わくわく事業」を申請しました。劇場となる古民家は瀬口さんの祖父母の家で、昔からよく遊びに来たり、いとこみなどで泊まったり、とても思い出の詰まった家だそうです。

古民家で演劇を始めたきっかけは？

この家が空き家になって、家族や親戚で掃除をしていたのですが、誰も使わない家を手入れするのは不毛な事で…何かここでできたらいいなと思うようになりました。

私は高校から演劇を始めて、社会人になって「とよた演劇ファクトリー」という演劇講座に通っていました。そこでやってみようと思った演劇の企画を立てる講座があり、「古民家で演劇をする」という企画を出したんです。空き家になつて古民家という空間を活かした小原でしかできない演劇をやってみようと思いました。しばらくして、演劇ファクトリーのプログラムディレクターの方にこの企画のことを話すと「もう来年やりなさい。初めはお客が10人でもいいからまずはやった方がいい。」と。私は10年後くらいにできた方がいいな、と思っていたんですが「…じゃあ、やります！」「つて（笑）それがきっかけで始めることになりました。」



集まってきた古をしてみます。みんなのアイデアをもとに私が脚本を書き、稽古場でもつとしよう

「わくわく事業」を知ったのは？

2回目までは「とよたデカスプロジェクト」という企画のコンテストに申し込んでいたのですが、父が「小原にわくわく事業ついでがあるよ。」と教えてくれて、今年から挑戦しました。

「わくわく事業」申請のポイントとは？

「小原のファンを増やす」というテーマで申請しました。小原の魅力を知らう目的ですが、一番は小原の方に劇を観ていただきたい：小原を題材にした作品はあまりないので地元ならではの劇を小原の方に観てもらって、小原のアイデンティティを再発見していただけたら嬉しいですね。もちろん小原外の方にもいい所だなと思うほしくて申請しました。

演劇仲間はどうやって集めていますか？

主に、豊田で出会った演劇の仲間を声をかけて集めています。1回目は7人、2回目は15人、3回目は15人と、だんだん人数が増えていて有難いです。演劇仲間にも小原を好きになつてもらいたいなと思つて声をかけています。みんな、働きながら演劇をやっている方ばかりなので仕事の後や、土日に

小原のどこが好きですか？

私は小原には決して都会では味わえない「余白」があると感じています。人との距離がちょうどよくて、何かをイメージしたり好きなことをする「余白」。そこが一番好きなところです。

今後はどんな活動をしていきたいですか？

古民家演劇は、年に1回程度続けていきたいです。今回は秋に開催しましたが、次は季節を変えてできたらいいなと、準備しているところです。

か、こうしたら面白いんじゃないか、とみんな演劇を創り上げていきます。



今回取材を兼ねて古民家演劇「HOME」を観劇しました。観客は座敷の座布団に座り、目の前で劇が繰り広げられます。演者の動き、表情、声のトーン、などとても迫力があり見入ってしまいました。脚本もとても面白く、古民家の空間を面白く使っていて75分があつという間でした。小原の歴史も盛り込まれて勉強にもなりました。次回の作品も絶対に観たい！と思いました。瀬口さん、ありがとございました。

A.N

お助け隊 たのんでみりん



「家を出た息子に頼る様な感覚で、気楽に困り事を相談してほしい。」そんな想いでわくわく事業「お助け隊たのんでみりん」を立ち上げた松井さん。

元々はトヨタ生協にお勤めされ、宅配の仕事をしていました。

たまたま小原地区の担当になった際、小原の方々の温かさに触れ、仕事で関わるだけでなく何か恩返しが出来たらという気持ちで芽生えたのですが、「よそ者（小原地域に住居のない）の自分が一人で動いても不審に思われるだけで何も始まらない」と社協に相談し、会社仲間と共にボランティア団体を発足しました。

シルバー人材センターで働く方達の仕事と重ならないよう、社協と事前のヒアリングを行った上、対象を「高齢世帯や一人暮らしの方の日常の困り事」に限定し、草刈りや庭木の手入れ等、基本的には家の周囲の作業を中心に請け負っていました。使う道具や燃料は全て自前、報酬は依頼者の笑顔！

それでもやっていけてはいたのですが、見かねた地域の方から「わくわく事業でやってみたら？」と勧められ、2024年度に申請されました。

お住いは豊田市街地なのに、何故小原で活動されるのかと伺ったところ「もともと山間地の生まれだから、田舎が恋しくてね」「な〜んか小原の人は、とってもあたたかいんだよ。」「よそ者に色々頼むのは頼みづらいのは分かつても、でもお互い持ちつ持たれつ。そう思つて笑顔になつてもらいたい。」そう言いながら、依頼者さんと笑顔で写真撮影を嬉しそうに見せてくださいました。

一人暮らしの女性の方が話しやすいだろうと女性スタッフも加入し、今後ますますお喋りにも花が咲きそうですね。皆様の周りに「一人暮らしでお困りの方がいらつしやたら是非「人じゃ大変だ、たのんでみりん！」とご紹介してみてくださいね。ご依頼は社協を通して依頼できます。

Y.S





パートナーの奥田さんと美佳子さん

2年前に小原に移住された奥田知史さん。

「スポーツ鬼ごっこ」を小原に広めたいと、わくわく事業を利用して交流大会を開催しています。自身もスポーツ鬼ごっこの日本代表選手だそう!

奥田さんは元サッカー選手でしたが、ケガのため選手を引退し子どもの監督を始めました。でも選手にならない子や辞めてしまいう子を見て「結局は出来る子しか残らない...もともとみんな楽しんでるスポーツはないのか?」と思い、色んなス

ポーツや遊びを試しました。そんな時スポーツ鬼ごっこをやってみないかと誘われてやってみたところ、とにかく楽しくて夢中になったそう。みんな楽しんでるスポーツはこれだ!と思いクラブチームを立ち上げました。

小原に移住したのは「子ども達みんな来ても遊べて泊まれる広い場所」を探して空き家バンクに登録したところ、今の家が見つかり広さと環境の良さが気に入って即決したそうです。

移住してからはスポーツ鬼ごっこを通



昨年12月に開催した
小原トレーニングセンターでの交流大会

スポーツ鬼ごっこ日本代表発表会+新ユニフォームお披露目



2024年11月10日 帝京大学

スポーツ鬼ごっこ × espajio

して小原の方と繋がっていききたいと思い、小学校の授業やニュースポーツフェスタで取り入れてもらっています。「誰でもどこでもできるスポーツだからこそ、この地域で広めていけたらいいと思います。」と、すっかり小原に馴染んでいる奥田さん。今はパートナーの美佳子さんと頑張っています。みんなスポーツ鬼ごっこを盛り上げていきましょう!

A.N



◆小原いろいろ情報

蚕霊神社の祭礼

元旦祭(1月1日)

節分(豆まき)(2月3日)



蚕の神霊を祭神としている神社。

0565(65)2683

〔1月12日(日)〕

令和7年小原地区

二十歳のつどい14~16時

式典・記念行事(つどいの会)

会場・小原交流館

市役所(こども若者政策課)

0565(34)6630

〔1月17日(金)〕

カンザカシキ



和紙づくりの工程のひとつで楮の木の皮を蒸して剥き取る作業(誰でも参加可能)会場・和紙のふるさと

0565(65)2151

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

検索

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/



ようこそおばら
委員会の公式
SNSに登録して
ください。

facebook Instagram



編集後記

いつも取材のたびに、「自分に見えないものを見ている人がいる!」と単純に感動してしまいます!多くの素敵な人に会話を聞くことができるのは、おばらのじかんの編集をしている役得ですね!あなたもいかがですか~?

Y.K (今回編集長)

今回取材したみなさん、とても面白い取り組みをされていました。自分のできる事や得意分野で地域と繋がりが盛り上げていく。私にもできる事が沢山あるな、と考えさせられました。みんなで住みやすい小原にしていきたいです。

A.N

取材の日は小原文化まつり。どこを見ても知った顔だらけで自然と笑顔になる1日。お隣さんは遠いが、人との距離は近くて温か。そんな小原の人達が集う貴重な時間が、この地をぽかぽかと温め、更に魅力的にしてくれますね。

Y.S

わくわく団体申請が豊田市の中でも一番多いとは知りませんでした。豊田市のとよたデカスプロジェクトに小原の関係するプロジェクトが4つもありました。小原に関わってくれる人が増えているのかもと実感した特集でした。

T.S



ようこそ

おばら委員会

発行: 2024年12月【ようこそおばら委員会事務局 豊田市役所 小原支所】

〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平441-1 Tel 0565-65-2001 Fax 0565-65-3695

E-mail: obara-shisho@city.toyota.aichi.jp 今後、本誌の郵便を希望される方はご連絡ください。